

## 内閣府「森林と生活に関する世論調査」(H15年12月)の概要

### 1 調査対象

全国20歳以上の者3,000人を対象。  
平成15年12月11日～21日に実施し、回収率70%。

### 2 調査目的

森林と生活に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。

### 3 調査項目

森林への親しみ      森林の利用      森林の役割と森林づくり  
木材の利用      地球環境問題と森林について政府が取り組むべき方策  
森林・林業行政に対する要望      (全26問)

### 4 調査結果の主な特徴

- 1) 地球温暖化防止対策としての今後の森林整備について初めて聞いたところ、「国際的な約束であるから、国や地方公共団体が主体となって森林の整備を進める」との回答が67%、「国民の幅広い参加や協力により森林の整備を進める」が39%となり、「現状のままでできる範囲のことをすればよい」は5%だった。
- 2) 地球温暖化防止対策として、これまで以上に森林を整備していくための費用については、「国民全体で負担する」(41%)、「温室効果ガスを排出する割合に応じて負担する」(40%)等の回答が多く、「新たな負担を求めずにできる範囲のことをすればよい」(16%)を大幅に上回った。

詳細は内閣府ホームページ (<http://www8.cao.go.jp/survey/index.html>) に掲載

### 5 調査結果の活用

「森林・林業基本法」(H13年7月)を踏まえた新たな施策の展開  
「地球温暖化対策推進大綱」(H14年3月)に基づく森林吸収源対策の推進  
等の参考資料として幅広く活用する予定。

## 内閣府「森林と生活に関する世論調査」(平成15年12月)の主な結果

### 【森林への親しみ、森林の利用】

回答者の88%が「森林への親しみ」を感じている。

森林の利用への希望では、67%が「心身のリフレッシュや健康のため森林浴をしたい」と回答。

### 【森林の役割と森林づくり】

森林に期待する働きでは、「山崩れや洪水などの災害を防止」(50%)、「地球温暖化防止」(42%)、「水資源を蓄える」(42%)との回答が多く、地球温暖化防止(前回39%)とともに「心身の癒しや安らぎなどの場」(26% 前回16%)が増えた。

「森林はたとえ経済効率に合わなくても、国土保全、災害防止などの公益的機能を重視して整備すべき」との回答が74%を占め、伐採や開発が制限されている森林の整備費用については、「主に税金で負担するが森林の所有者も一部負担すべき」との回答が最も多い(43%)。

### 【木材の利用】

「国内の森林から生産される木材(間伐材を含む)の利用を促進することが森林の整備にとって必要だということをご存知でしたか」との問いに対し、「はい」が60%となる一方で、「いいえ」も40%に達した。

80%が「木造住宅を選びたい」と答え、小学校や中学校などの「学校施設」(50%)に加えて、「医療施設や福祉施設」でも木材を利用していくことが望ましいとの回答が50%(前回30%)に達した。

### 【地球環境問題と森林について政府が取り組むべき方策】

地球温暖化防止対策としての今後の森林整備について初めて聞いたところ、「国際的な約束であるから、国や地方公共団体が主体となって森林の整備を進める」との回答が67%、「国民の幅広い参加や協力により、森林の整備を進める」が39%となり、「現状のままでできる範囲のことをすればよい」は5%だった。

これまで以上に森林整備を進めていくために必要となる費用については、「国民全体で負担する」(41%)、「温室効果ガスを排出する割合に応じて負担する」(40%)、「緑の募金などの自発的な拠出により負担する」(34%)との回答がそれぞれ多く、「新たな負担を求めずに、できる範囲のことをすればよい」(16%)を大幅に上回った。

### 【森林・林業行政に対する要望】

「土砂崩れなど災害を防ぐ施設の整備」(60%)、「様々な役割を果たす多様で健全な森林の整備」(59%)等の回答が上位を占めた。

( 今回の調査結果からうかがえる主な点 )

## 1 森林は公益的機能を重視して整備

環境問題への関心の高まりとともに、森林の様々な働きに対する国民の期待が高まっており、回答者の74%が「森林はたとえ経済効率に合わなくても、国土保全、災害防止などの公益的機能を重視して整備すべき」と考えている。(「経済効率を第一に考えて整備すべき」は14%)

## 2 心身の癒しや健康への関心

リフレッシュや健康のための森林浴への希望や、病院や老人ホーム等の福祉施設への木材利用への期待などが顕著に高まっていることは、都市化が進展する中で心身の癒しややすらぎを求める近年の傾向や、高齢化が進む中で健康への関心の高まり等が表れたものと考えられる。

## 3 地球温暖化防止対策としての森林整備への期待

地球温暖化防止対策としての森林整備については、「現状のままで、できる範囲のことをすれば良い」(5%)、「わからない」(7%)などの回答を除くと、回答者の8割以上が積極的に森林の整備を進めるべきと考えており、また、これまで以上に森林整備を推進していくために必要となる費用についても、回答者の7割以上が何らかの負担をすべきとの考えを有している。

その背景としては、地球温暖化問題への関心の高まりや、手入れが行き届かず国内の森林が荒廃することへの懸念などが考えられる。

## 4 木や森に対する若い世代の関心を高める必要

木材利用や木造住宅に関しては、若い年齢層ほど関心が低くなっており、同様の傾向は森林への親しみでも表れている。日常生活の中で木材や森林にふれる体験が減ってきている近年の傾向がうかがえ、今後、森林環境教育の推進や木材利用の意義についての啓発を進めていく必要があるものとみられる。

## 5 森林ボランティア活動への参加

森林ボランティア活動への参加の意向(41% 前回44%)はやや減ったが、参加の形態では「森林ボランティア団体に加入して活動したい」(29% 前回23%)が増えており、積極的な活動への参加を指向する傾向がみられる。

(参 考)

内閣府「森林と生活に関する世論調査」(H15年12月)の主な結果

- 1 森林への親しみ  
親しみを感じる (88.0%)      親しみを感じない (11.1%)
- 2 森林に期待する働き  
山崩れや洪水などの災害を防止する働き ----- (49.9%)  
地球温暖化防止に貢献する働き ----- (42.3%)  
水資源を蓄える働き ----- (41.6%)
- 3 これからの森林整備のあり方  
森林はたとえ経済効率に合わなくても、国土保全 ----- (74.4%)  
災害防止などの公益的機能を重視して整備すべき  
森林は、木材を生産するなど経済活動の対象であ ----- (13.9%)  
るから、経済効率を第一に考えて整備すべき
- 4 木造住宅か非木造住宅か  
木造住宅 (80.4%)      非木造住宅 (12.8%)
- 5 公共施設への木材利用  
小学校や中学校の校舎などの学校施設 ----- (49.9%)  
病院などの医療施設や老人ホームなどの福祉施設 ----- (49.5%)  
幼稚園、保育園や公園にあるすべり台などの遊具 ----- (38.7%)
- 6 地球温暖化防止のための森林整備  
国際的な約束であるから、国や地方公共団体が主体 ----- (66.9%)  
となって森林の整備を進める  
広く情報を提供して国民の幅広い参加や協力により ----- (39.4%)  
森林の整備を進める  
森林所有者自らの取組を主体に森林の整備を進める ----- (21.7%)  
現状のままで、できる範囲のことをすればよい ----- (5.3%)
- 7 地球温暖化防止対策の費用負担のあり方  
森林の恩恵は広く国民全体に及ぶことから国民全体で負担 (40.5%)  
温室効果ガスを排出する割合に応じて企業や国民が負担 (39.7%)  
緑の募金などの自発的な拠出により負担 ----- (34.3%)  
ボランティアなどの自発的な森林整備活動により負担 -- (16.8%)  
新たな負担を求めずに、できる範囲のことをすればよい - (16.0%)